

科目	英文講読	担当	リハ新任	履修学年	1年	
時間数	90分×時限×15回(週1回)		履修区分	必修	単位数	2単位

**【授業目標・到達目標】**

この授業では英文講読に必要な英文法を復習しながら、英文を読む。教材はDonald Keene著Living In Two Countriesを用いる。キーン氏は2012年3月に日本国籍を取得し、日本に住みながら、研究活動を続けている。そもそも日本人になるという決断は、2011年3月の東日本大震災後に帰化を決めたとのこと。コロンビア大学を退職後9月に永住のため来日した。『家具などを全部処分して、やっと日本に来ることができて嬉しい。今日は曇っているが、雲の合間に日本の畑が見えて美しいと思った』と日本語で感慨を流暢に語っている。来日後は被災地を訪問して被災者を激励している。日本研究の第一人者であるキーン氏の書く英文は、日本への深い理解と思い入れがあり、外国をそして外国語を学ぶことの重要性にあらためて目を開かせてくれる。是非この本を読むことにより英語の構文理解と共に、日本人をどうキーン氏が観ていたかを知って頂きたい。

**【履修注意】**

毎回出席して、英文の流れを失わないようにして頂きたい。

**【評価方法】**

評価は中間まとめ50%、最終まとめ50%で行う。全出席が望ましい。

**【試験について】**

中間まとめと期末テストを実施する。**再試験対象者の条件**： 評価が40点以上60点未満であること

**【予習・復習】**

毎回授業後すぐに復習をすること。90分の授業に対して45分の予習をすること。

**【教科書】**

Donald Keene著 Living In Two Countries 朝日出版社

**【参考書】**

「英和辞典」を必ず持参すること。(どこの出版社のものでもいい)電子辞書でもよい。

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	Springtime in Japan	梅、桜、和歌にみられる日本の春
2	Can the Japanese Become True Cosmopolitan? (1)	風説書、鎖国、国際人
3	Can the Japanese Become True Cosmopolitan? (2)	風説書、鎖国、国際人
4	The Treatment of Foreigners (1)	漢字、外人好み、外人対応
5	The Treatment of Foreigners (2)	漢字、外人好み、外人対応
6	Japanese Men	日本人男性の典型、時代劇の中の日本男性
7	Education Today	アメリカの教育システム、日本の教育システム
8	中間まとめ	1講から7講までのまとめ
9	The Purity of the Japanese Language	外来語、純粋な日本語
10	Japanese Food	刺身、すき焼き、山葵、塩辛
11	Japanese Women	献身、日本女性の変遷、夫婦同伴
12	Things I Miss about Japan While Away (1)	日本の雰囲気、日本での名声、日本の自然
13	Things I Miss about Japan While Away (2)	日本の雰囲気、日本での名声、日本の自然
14	Living in Two Countries (1)	安心感、国民性、2大都市の違い
15	Living in Two Countries (2)	安心感、国民性、2大都市の違い
16	総合まとめ	1講から15講までの確認と総まとめ